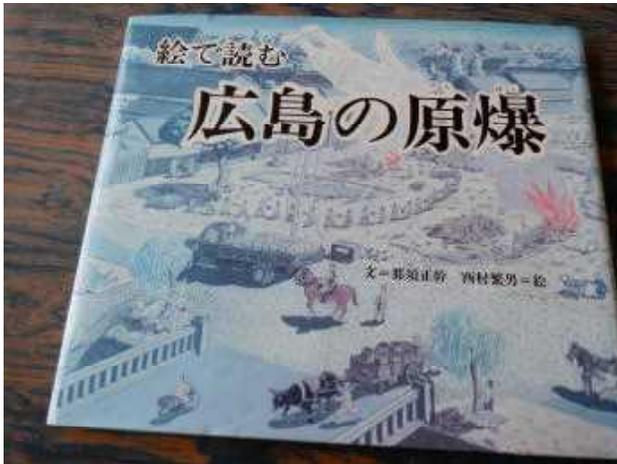


・学校（ワークルーム）にある広島に関する図書の紹介

修学旅行から帰ってきて、まだ読んだことのない本があったら、全校読書の時間などに手に取ってみてください。



「太平洋戦争が深刻化するにつれて、広島でも防空演習が行われるようになり、日本の各郡市がつぎつぎと空襲されるようになってからは、家ごとに防空壕がほられました。しかし、防空演習も防空壕も、あの日にはなんの役にも立ちませんでした」

『絵で読む広島原爆』

文＝那須正幹 西村繁男＝絵



「母がときどきヒロユキの顔にとんでくるハエを手ではらいながら、いいました。」

ーヒロユキはしあわせだった。母と兄とお医者さん、看護婦さんにみとられて死んだのだから。空襲の爆撃で死ねば、みんなバラバラで死ぬから、もっとかわいそうだった。」

『おとなになれなかった弟たちに...』

作 米倉 加年



「・・・周作さん」
「ありゃ 何ですか」
「船ですか？」

「・・・大和」
「大和じゃ！よう見たって
くれ
あれが東洋一の軍港で生
まれた世界一の戦艦じゃ」

『お帰り』言うたってくれ
すずさん」

『この世界の片隅に』
著者 こうの史代



「もし、どこかで、荷台
にピアノがえがかれた
大きなトラックを
みつけたら・・・それは、
ヒロシマの被爆ピアノ、
わたしがのっている
トラックかもしれません。」

『ヒロシマのピアノ』
指田和子 文
坪谷令子 絵